

「福笑い」元気にすくすく生長中です！



県南地区「福、笑い」栽培研究会の実証ほを担当している白河市の入方ファームでは、「福笑い」の田植が5/15に行われ、3回目の「福、笑い」栽培がスタートしました。

生育は6月の低温によりやや遅れましたが、現在は概ね良好となっています。『栽培方法を守って、良質でおいしい「福、笑い」を生産していきたい』とのことでした。

(県南農林事務所農業振興普及部)

↑ 入方ファームの「福笑い」

JA 会津よつば「福、笑い」研究会に所属する株式会社アグリネクスト(斎藤寛さん)の「福笑い」です。

7/7時点で草丈は60cm、葉色(SPAD402)は38.7、茎数が340本/m²と、これから中干しに入っていく時期を迎えます。『プレデビューから3年、この田んぼで「福、笑い」を作付けしています。今年も順調に生育している』とのことでした。

(会津農林事務所会津坂下農業普及所)



↑ (株)アグリネクストの「福笑い」

意見交換会を実施しました

研究会の主體的な活動を充実させ高品質・極良食味な「福、笑い」を生産するため、6月7日に研究会の事務局及び生産者代表を参集した意見交換会を開催しました。

参加した皆様からは、こだわりを持った「福、笑い」生産を実施していることや、販売におけるPR活動について要望があげられ、有意義な意見交換となりました。

(水田畑作課)



←意見交換会の様子

実証ほで生育診断を実施します

各研究会の「福、笑い」実証ほ等において、ドローンを利用した生育診断を実施します。診断方法は、幼穂形成期及び穂ばらみ期にドローンではほ場を撮影し、ほ場全面の葉色を診断し、次年度以降の施肥判断に活かしてもらうものです。

今年も7月中旬頃から各地で撮影予定です。

(水田畑作課)



←昨年度撮影の様子



農業総合センターからの生産技術ポイント



【現在のセンターの生育】

6/28 現在、草丈は本部（郡山市）が長く、会津地域研究所（会津坂下町）、浜地域研究所（相馬市）では短くなっています。茎数は本部で少なく、会津、浜では多いです。葉齢は本部、浜で少なく、会津で多くなっています。葉色は本部、浜でやや濃く、会津ではやや薄いです。

【今後の栽培管理について】

＜水管理のポイント＞

目標茎数（坪当たり 60 株で 20～22 本/株、坪当たり 50 株で 24～26 本/株）を確保したら、中干しを実施し、無効分けつの抑制と根の健全化を図ります。

その後、遅くとも幼穂形成期（出穂 25 日前頃）までには中干しを終了し、穂ばらみ期（出穂前 10 日頃）まで間断灌漑を行いましょう。

穂ばらみ期～出穂期にかけては、水分が不足すると開花や受精に障害がおり、不稔粒が増加するため、湛水管理とします。

出穂期後の基本は間断灌漑ですが、高温時は白未熟粒や胴割粒が多発するため、「飽水管理（ひたひた水状態）」を行い、水田の水温、地温を下げてください。

落水時期の目安は出穂後 30 日です。胴割粒など玄米品質の低下を防止するため、早期落水はやめましよう。

＜穂肥のポイント＞

穂肥の時期は幼穂形成期とし、必ず生育量、特に葉色（各地域の栽培暦を参照）を確認して、生育が過剰でない場合、窒素成分 2 kg/10a 以内で実施します。

遅い穂肥（減数分裂期以降の追肥）、実肥（出穂以降の追肥）は食味が低下するので、絶対に行わないでください。



↑ 6/28 現在の「福笑い」（本部）

表 農業総合センターにおける「福笑い」生育状況

調査場所	移植日 (月・日)	6/28現在			
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
本部	5.16	43.0 (105)	545 (85)	8.9 (-0.4)	40.7 (0.7)
会津地域 研究所	5.19	48.3 (94)	706 (112)	10.3 (0.3)	41.3 (-0.7)
浜地域 研究所	5.10	47.7 (85)	724 (109)	9.5 (-0.3)	43.6 (3.9)

※（ ）内数値について、本部では前3カ年、会津・浜では前2カ年平均値と比較した値です。草丈・茎数は前3カ年及び2カ年平均値との比（%）を、葉齢・葉色は前3カ年及び2カ年平均値との差を示します。

（農業総合センター作物園芸部稲作科）

研究会の活動を紹介します

ふくしま
プライド。

JA 会津よつば「福、笑い」研究会（活動3 年目）

研究会員、生産地域について：

今年度からの新規会員 14 名を含む、計 21 名が、会津若松市、喜多方市、柳津町、会津坂下町、会津美里町、湯川村で 作付けしています。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

多くの会員が有機質肥料を入れて減化学肥料を心がけています。

7 月には追肥のタイミングでの検討会時に生産 1 年目から 3 年目の生産者が栽培方法を共有し、全員が出荷基準をクリアできるよう栽培管理を行っていきます。

販売に向けて：

米の卸業者に声をかけながら販売活動を行う予定です。

一言：

全国のトップブランド米に負けない「福、笑い」を作っていきます！！



↑ JA 会津よつば「福、笑い」
研究会の「福笑い」ほ場 ↓



あだたらの里「福、笑い」研究会(活動2 年目)

研究会員、生産地域について：

大玉村の生産者 4 名に加え、今年度から矢吹町にある「福島県農業総合センター農業短期大学校」を新規会員に迎え、学生さんと一緒に活動しています。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

「収量より食味」を研究会の「基本理念」とし、勉強会などを多く開催し、会員で情報を共有しながら栽培管理を行っていきます。

販売に向けて：

大玉村の「ふるさと納税」返礼品への提供や、直売所での販売、関東圏での販売も、昨年同様行うほか村内の飲食店での提供も行う予定です。

一言：

環境にやさしい「SDG s 農業」を心がけながら福島県の皆さんが「笑顔」になるような「福、笑い」を生産できるように頑張ります。



↑ 「福笑い」の田植えを行う
農業短期大学校生



↑ 大玉村あだたらの里直売所での
「福、笑い」販売イベント